

平成 27 年度 学校法人三幸学園 広島ビューティーアート専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安 由香

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 金永 真利那

1. 学校の教育目標

素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献できる人材の育成。
お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材の育成。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

主体性を持った生徒の育成。美容業界を取り巻く社会情勢を理解し、業界にとって真に必要な人材となるための社会人基礎力と専門知識・技術を兼ね備えた人材育成。

組織(三幸学園)の掲げるミッション・ビジョン及び目指す育成人物像を全教職員に対して理解・浸透を図る。
美容業界との連携構築による実践的学習の検討と、求める人物像の把握による学校教育の課題発見。
パワーポイント等視覚教材の活用による学習理解度の深化。

・学校関係者委員会コメント

- ・「心の教育」に力を入れている姿勢は共感できる。働き出せば、企業のやり方に合わせることも必須。その為の素直さを育てほしい。
- ・今後も質の向上を具体化し、より一層の発展を期待している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

美容業界との連携を深め、業界の求める人物像を的確に掴み教育目標、育成人物像に反映すること。
またそうした”社会が求める人物像”を学生および保護者へ更に周知し、それに伴う教育への理解を更に深めること。こと保護者においては授業、実習、学校生活等に対しより一層の理解と協力を得ること。

② 今後の改善方策

関連企業・団体との連携を深めるための訪問・面会、研修等の機会を増やす。また地域に限定しない全国的な業界の動きを掴み、情報を収集する。関連企業に対しては本校教育への理解と連携構築へのアプローチをする。産学連携を推進し、業界に対して本校学生により貢献と協力を、また本校教育への参画と協力を求め、相互にメリットのある関係構築できる企業を増やしていく。

③ 特記事項

今年度より、より即戦力となる人材育成を目指し、業界のニーズを深く理解することを目的に、サロンワークというカリキュラムを中心に学外での活動に積極的に参加している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・今年度から導入されたサロンワークカリキュラムは評価できる。在学中に将来お客様となりえる年齢層の方と接することができる機会は貴重
- ・人材育成について、明確に定められておりわかりやすく素晴らしい
- ・業界のニーズ把握に向けて、在校生に伝える機会があるとよい

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

運営に関する意志決定機能は、職務権限により明確化されているが、都度教職員間の相互確認や上長への相談と指示命令によるところが大きい。そのため、相互確認時の齟齬、もしくは上長への適切な報告、相談が滞ることによって学校運営上に支障をきたす恐れがある。

情報システムに関する専門知識を持った教職員が少なく、学園本部のシステム担当者への問い合わせが多い。そのためシステムトラブルにおける業務の遅滞が散見する。

② 今後の改善方策

内規により明確な運営規則の制定と教職員間の周知徹底を図る。また共通認識を持てる運営マニュアルの作成を行う。

学園本部のシステム開発室およびサポートデスク(ヘルプデスク)との連携を深めシステムトラブルの防止及び発生時の対応を速やかに行い教育活動の遅滞をなくす。

③ 特記事項

年3回、定期的に全教職員・講師にむけての会議を実施し、運営方針とともに、情報共有を積極的に行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・適切に学校運営がなされていると感じる
- ・方針の徹底がなされている点は評価できる

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 ② 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

運営側の教職員において美容業界の最新情報、最新の情勢等への理解と把握が弱い。またそれらを補強するための研修の機会が少ない。

② 今後の改善方策

教育課程編成委員会による関連業界委員の意見を集約しそれらを元により具体的に教育活動への還元及びより実践的、体系的な教育課程の編成に向けて検討を進める。

現在インターンシップ実習等により連携を図っている業界団体と、より密な連携を継続的かつ定期的に行うため、意見交換会の実施や、学生の事例研究発表への参加要請などを行う。

また、教職員への専門分野における知識・技能を習得するための研修を継続的に実施し、それらを実際の教育現場にてアウトプットしていく。

③ 特記事項

実習先企業様へ実習アンケート及び評価表のご協力を頂き、本校生徒の現場における適切な外部評価の把握と教育機会の改善指針としている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・外部からのアンケートを実施し、その結果を取り入れていることは大いに評価できる
- ・勉強が検定試験にうかる為だけではなく、社会に出たのちの活かし方に取り組んでほしい

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

退学率においては低減のための様々な取り組みを行ったが明確な成果を出すには至っていない。入学後の学習や学校生活、行事等学校生活の中で、美容業界への就業意欲、学修意欲の醸成と向上を図れていない現状に対し、今後改善の余地がある。

② 今後の改善方策

入学前の学生および保護者への事前説明と学校方針への理解を求めするためのガイダンスを実施する。クラス担任による学習成果および学校生活の様子の把握と、教科担当への情報提供また教科担当からの情報収集により、学生のモチベーションの変化や細かな動向の変化をタイムリーにキャッチし、退学防止に努める。該当教員によるクラス会、学科会等情報交換機会を増やし、学校全体でのサポート体制を構築する。

③ 特記事項

各種アンケート(授業・実習・卒業生)を有効活用し、課題発見と具体的な施策検討を行っている。

就職率(全生徒に対する) 平成26年度:100% 平成27年度:91.8%

退学率 平成26年度:5.7%(106名) 平成27年度:15.1%(172名)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・検定取得に対する取り組みは素晴らしい。今後も継続してほしい。
- ・業界の理解もちろん必要だが、仕事を通じてよりよく生きる自己成長・意欲が大切。高い意欲が持てるように、人としての成長を促せるように期待している。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

- ・保護者へ学校の運営・教育方針に対し更に理解を深めていただく必要がある。
- ・入学時の保護者説明会の実施と、随時の学校行事観覧のご案内、年3回の保護者様宛の通信を送り、コミュニケーションをはかるも連携体制の確保とまではなっておらず、保護者との連携は問題行動のある学生が主と偏りがある。

② 今後の改善方策

- ・入学前の説明会実施、入学後は適宜学習状況や学校生活の状況報告と家庭での様子等を相互に情報交換し、信頼関係を深めていく必要がある。(年度初めに全家庭へ担任よりお電話にてご挨拶を実施)
- ・最低年2回の担任との個人面談の実施や、担任だけでなく全教職員で円滑な連携を取り、支援体制を強化するため、クラス会議やクラス連絡ノートを作成し、環境整備を行っている。

③ 特記事項

- ・スクールカウンセラーの設置
- ・卒業生へのフォローを目的としたホームページ「Sanko Link」の開設

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・学生支援や1人1人の指導は、きめ細かくやれていると感じる

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

・校舎及び設備については、保守管理企業様と円滑な連携の上で、安心・安全な脅威行く環境の維持向上に努めている。また、防災指導を一過性で終わらせるのではなく、常に全教室へ避難経路の掲示を今後行っていく。

・実習先企業様は生徒へ希望をとって、ご依頼をおこなっており、ほぼ希望通りの実習先にお世話になることができている。

② 今後の改善方策

避難経路の掲示。

③ 特記事項

ロサンゼルス(エステ・メイク・ネイルコース)・ハワイ(ブライダルコース)への海外研修制度を設け、海外での美容・ブライダルの知識・技術を学べる機会を提供している。(希望者のみ)

《主な教育設備》

- ・メイク実習室
- ・ネイル実習室
- ・エステ実習室
- ・チャペル
- ・バンケットルーム
- ・ドレスルーム

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設、設備ともに学習環境として問題ないと感じられる
- ・避難経路の掲示の徹底をお願いしたい

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多彩なニーズに応え、健全な学校運営の基盤となる募集活動に取り組んでいる。学生募集活動は県の指導に準じて適正に行っているが、教育成果をよりわかりやすく伝えていけるよう改善が必要。

② 今後の改善方策

・近年は学費支払が困難であることを理由に、進学を辞退する生徒も多くなっているため、特に保護者説明会やパンフレットを通じ、明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかりやすく伝えていくことに努める。

③ 特記事項

・地域で設置されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機会を通じて正確に伝えられるように計画的に活動を展開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・募集活動は適切に行われていると感じる
- ・入学希望参加者のオープンキャンパス、保護者説明会時にも丁寧に説明ができている

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。

② 今後の改善方策

- ・制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいく
- ・規模の増加に対応するための人材の育成

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画については、当初予定を前倒して H25 年度に完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・健全な財務状態はとて評価できる
- ・今後も継続して透明性を保ってほしい

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

さらなる法令遵守の推進。また、会議や掲示物等を通じて、すべての職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

② 今後の改善方策

自己評価による問題点における具体的な改善策の構築

③ 特記事項

平成 27 年度より自己評価結果を公開開始

④ 学校関係者評価委員会コメント

・この委員会を含め、外部の声を積極的に活用し、引き続き教育の質を高めてほしい

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

① 課題

地域貢献活動においては十分とは言えない。

② 今後の改善方策

地域へ開かれた学校として、積極的に情報公開、施設貸し出しなどを実施する。

地域貢献を目的とした教育活動を実施し、地域社会に開かれた学校教育を行っていく。

③ 特記事項

平成 28 年度よりサロンワークの一環として、ボランティア活動に取り組んでいる。

また各業界団体との連携も強め、教室の貸し出し等にも協力をし、中国地方の美容学校の先生方へも学びの場を提供している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ボランティア活動は対話力を醸成するにあたり、とても効果的だと思われる。力を入れて取り組んでほしい

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	①
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	①
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	①

① 課題

留学生の受け入れ実績がないため、課題及び方策については不明。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

留学生申請取次者を1名常設。

④ 学校関係者表評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

財務及び学校運営においては概ね健全と思われる。

平成 27 年度は開校 6 年を迎え、地域の美容業界においては本校の認知度、貢献度ともに年々増している実感である。しかし一方で業界の期待に応えられていないケース(現場実習での学生の取り組み・成果への低評価、就業先での想定しない早期退職や能力・成長に対し期待に応えられていない、など)も散見する。

また、本校入学後、学習を進める中で、入学時に持っていたモチベーションを維持できずドロップアウトする学生も少なからずおり、学習意欲の維持向上と、卒業後の業界で活躍できる人材の育成という共通の目標に対し全教職員による統一した認識と、指導力の向上は必要不可欠である。

本校講師には現在も美容現場の第一線で活躍している人が多く、そういった面からも現場のニーズを教育活動に反映させていきたい。

本校では平成 27 年度に職業実践専門課程の認可を受け、今後も教育課程編成委員会、学校関係者委員会等により、各関連業界の方や、卒業生、保護者等による本校教育への課題、提案などを収集していき教育課程及び教育活動の見直しを適宜図っていきたい。

卒業生との関係については、卒業生の就業後の早期退職が多いことが課題として挙げられる。本校との継続的な関係の構築はもとより、本校の教育成果である卒業生が長く業界で活躍できるよう在学中からの教育にて改善を図りたい。卒業生勤務先への定期的な訪問や情報収集を積極的に行うことにより、関係の構築に努めていきたい。